海匝・山武 男女共同参画だより

２０２１年１１月１日



～ 地 域 で 広 が る 笑 顔 の 輪 ～

「男女共同参画」と聞くと、「難しい」「よくわからない」と思うかもしれませんが、実はごく身近にあるものです。そんな身近なところにある男女共同参画や、市町の地域推進員が日頃行っている男女共同参画推進活動を紹介します。ぜひご覧ください！

受け入れ、育む、そのままでいられる場所『ありのまま』　横芝光町（半田美智子・伊藤清美）



『ＮＰＯ法人みんなの居場所ありのまま』理事長として活躍される内田美穂さんを取材しました。

『ありのまま』は、ご自身がお子様との関わりの中で、悩み模索した経験や地域の方との交流から、親と子を支える居場所を作ろうと決心され生まれたそうです。

フリースクールでの自然体験型活動では、「子ども達の自発的な思いを尊重すること・個性を生かすこと」を大切にし、様々な人との触れ合いの中、展開されているそうです。また、『親の会』も立ち上げ、活動の中で作成した「不登校ガイド」は、山武郡市周辺で活用されており、ＳＮＳの普及で遠方の方ともつながるなど、活動の幅は広がりを見せています。

「『ありのまま』でエネルギーを貯め、心の元気を回復し、学校や社会に繋がるようになれば幸せ、そして、自分がやりたいことを追求できる社会、その人の持ち味が生きる社会の実現が全ての人の“笑顔”につながる」と内田さんは話してくださいました。これらの考え方は、男女共同参画社会の実現そのものだと思いました。

起業８年、森のパン職人　山武市（佐藤君江）



パン旅や高級食パンが人気の中、知る人ぞ知るおいしいパン屋さんを見つけ取材を申し込みました。ＪＲ日向駅の近く、自然いっぱいの住宅街にある「森のパン工房あ～の」の高田温美さんがこのパン工房を始めたのは８年前。定年を迎えたご主人の応援と協力を得て、地域の活性化の役に立てればと起業しました。

「あ～の」の一番人気のプレミアム食パン『ふわ絹®』は、高田さんが焼きたて食パン本来のおいしさを納得がいくまで追究し、半年の試行錯誤の末に開発した食パンです。「あ～の」のこだわりは、「素材・作り込み・食感」の安全で美味しいパン作り。そして、パン職人高田さんの想いは、「ふわっほわっと温かさが伝わるようなパン」をひとつひとつ心を込めて手作りすること。お店に並ぶパンが美味しいのは、高田さんのこの想いが込められているからなんですね。

これからも地域密着で自分らしく頑張るパン職人を地域のみんなで応援していきたいです。

介護への情熱ひとすじに　　大網白里市（矢部春美・三木美佐子）



35 年前からヘルパー事業を始め、現在も訪問介護等の介護サービス事業を手がけている「株式会社ふれあいサービスセンター」の社長　佐藤廣子さんを取材しました。

佐藤さんが介護の仕事を始めようと決意したのは、昭和 61 年に沖縄戦跡巡りに参加し、戦後 40 年たっても変わらない悲惨な光景に「今の幸せな暮らしは、多くの犠牲の上にある」と痛感したことがきっかけでした。すぐに、高齢者のためにお手伝いできることを考え、４人の仲間と「ふれあいサービスセンター」を設立。介護保険制度の始まる前で、一つ一つ手探りで進め、仲間を増やしていきました。その後も、ヘルパーの育成が急務と考えた佐藤さんは長い経験から培ってきた技術を基に研修事業を始め、市内だけでなく、近隣でも事業を広げています。また、３年前には念願の介護施設を立ち上げ、入所者と楽しく充実した日々を送っています。

「これからは後進の育成に尽力したい」と笑顔で話してくれた佐藤さん。今後も介護への情熱と行動力でますます活躍されることを期待しています。

“おとぎの森”へようこそ！　　旭市（伊藤浩子・小橋静枝）



一歩足を踏み入れるとそこはメルヘンの世界！ここは工務店の一角にあるボランティアの絵本館「おとぎの森」。館長の萩原薫さんにお話を伺いました。５年前、ご主人と相談して家庭文庫を作り、地域の皆さんが立ち寄れる場所としてスタートし、今では４００冊もの蔵書があるそうです。司書教諭をしている長女が環境を作り、次女が白壁いっぱいに夢のある絵を描き、そして管理等を手伝ってくれる友人や有志たち、周りに同じ思いを共有する方々がいっぱいです。４人のお子様を育て上げ、仕事＋館長＋主婦の３役をこなし、今の生活は家族の協力を得て、バランスが取れた毎日を送っているようです。常に新しいものを取り入れ、訪れる子供達、親子連れなどを温かく出迎え誰にでも開かれた場所になるよう心掛けているとのことです。以前行っていた読み聞かせや季節ごとのイベント等もやりたいし、今後も地域ネットワークの拠点になりたいと意欲を見せていました。

千葉県男女共同参画地域推進員とは

男女共同参画社会づくりを進めていくためには、県民一人ひとりの意識を高めることが必要です。

そのため、千葉県では「千葉県男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、地域推進員は県内6つの地域に分かれて活動しています。

地域推進員は、地域と市町村・県とのパイプ役となり、各地域の特性を踏まえて、講座・講演会の開催や広報誌などの事業を通じ、地域での男女共同参画の意識の普及・啓発をしています。

夫婦で育児を共有する時代に向けて　東金市（石川安子・古川煌子）



今回は、育児休業を取得した東金市役所に勤務する男性職員さん２名の方にお話を伺いました。８年前に育休や有休等を利用して１カ月間取得した職員さん。３人目の子育てで最後になるという想いと仕事のタイミングが合った事が取得のきっかけになったそうです。今年度初めて育休を取得した職員さんは、夫婦で初めての子育てをするにあたり、事前に仕事の調整をして２週間取得したそうです。上司や同僚の理解もあり、仕事のやり方を工夫することで可能になりました。お２人共「子育ては夫婦で協力して行うものですから。」と語ってくれました。夫婦で育児にかかわる時間を大事にしてほしいと思います。

以前には、対象者６人中５人が育休を取得した年度もあり、育児休業に対する理解は深まっていると感じます。「東金市第３次男女共同参画プラン」では、令和７年度までに男性職員の育休取得率を９０％以上にする目標があります。男性がベビーカーを押す日常が近い事を願っています。頑張れ！！東金市。

地域の活性化に挑戦つづける・・・　九十九里町（松木加津江・二葉久枝）



地元で電気店を経営している櫻井憲子さん（７２歳）を取材しました。九十九里町商工会女性部長、千葉県商工会女性部連合会副会長、そして、九十九里町総合計画審議会の会長として活躍中です。総合計画審議会とは、町長の諮問に応じ、九十九里町総合計画の策定、重要施策の計画に必要な調査・審議を行うこととされ、積極的な発言と経験、答弁力があり、会長としてスムーズな会議進行等を行っています。

今回のインタビューで櫻井さんは、男女共同参画の柱である、職場に活気をもたらす（個人が能力を最大限に発揮できる社会）・家庭生活の充実（夫婦仲よく）・地域の向上（ボランティアの参加や子供達を伸びやかに育成する）を常に心がけており、私たち推進員の良き理解者でもあります。また、櫻井さんは、「これも主人の理解と協力あっての事です。」と笑顔で答えてくれました。

女性の力で男女共同参画推進　匝瑳市（企画課男女共同参画担当）



今年度から匝瑳市男女共同参画推進委員会委員が新たに委嘱され、前千葉県男女共同参画推進員で、長く市の委員も続けて頂いている大木幸恵さんが女性として初めて委員長に選任されました。年齢も立場も多彩な方で構成される同委員会を取りまとめ、推進をする立場から、インタビューをさせて頂きました。

「また新しいメンバーで、新しい感覚で皆さんから意見を頂きたい。」「委員は１３人中９人が女性であり、活発な意見交換が行われる会議になっている。」「今後もそれぞれの関係する団体や仕事、立場で多様な意見、様々な角度、色々な視点で意見を頂きながら、さらに推進をしていきたい。」と、これからの抱負を語ってくださいました。

コロナ禍の中、制約のある活動となりますが、今後も委員の皆さんの男女共同参画推進が地域に広がることを願っています。

～共生社会を目指して～　　銚子市（金尾記子・岩瀬賢氏）



ロイターマン絵美さんは、大学卒業後、台湾に移住し１５年間過ごしました。中国語や移住の経験を活かし、昨年 11 月から「銚子市地域おこし協力隊」として活動中です。コロナ禍で対面の活動が制限される中、行政の手続きをやさしい日本語で解説したガイドブックを市内の外国人向けに作成しました。

台湾での生活や習慣について尋ねると「台湾では時間がゆっくり流れている感じがしました。皆、人に対して親切です。困っている人に対してすぐに手を差し伸べてくれます。家庭内においては、家事などその時々で出来る人がやるという習慣があり、女性も外で働く人が多く、男性も何でもする習慣があるようです。」と話されました。台湾では、日常生活から男女共同参画ができていて、日本より進んでいるのかなと感じました。

「国際化をプラスに捉えて、人と人との間に壁を作らず、誰もが住みやすい地域にしたい」と話す絵美さんの活躍を期待します。

女性活躍を応援する企業　　芝山町（石井正恵）

成田空港そばの「空の湯」という温浴施設をご存知でしょうか？空の湯の他、清掃業・警備・人材派遣等広く地域に根差した企業　三栄メンテナンス株式会社代表取締役社長萩原様からお話を伺いました。

萩原社長の取組みは管理職、総合職の女性登用(今季新卒者は女性２名内定)と子育て中の総合職女性社員には時短勤務など一人一人にあった環境を提案されています。また、空の湯立上げ時には新入社員(男性２名女性２名)とやる気のある非正規女性社員を社員登用しプロジェクトチームを発足させました。チームの提案したアイデアは現在の施設の随所に盛り込まれているそうです。女性雇用に積極的な萩原社長は今後の課題として女性雇用のニーズと働きたい人とのマッチングが上手く行っていない事を挙げられました。その背景にはこの地域での自力通勤の難しさと子育てサポートの不足があるとおっしゃっていました。今回は萩原社長のバイタリティ、そして社員の方々と地元への広い空のような優しさに感動したインタビューでした。



＜発　行＞　　千葉県男女共同参画地域推進員（海匝・山武地域）

（事務局）　千葉県男女共同参画センター
〒260-0001　千葉市中央区都町 2-1-12
TEL　043-420-8411　/　FAX　043-420-8581